



世界に広がるジャムズネットの活動



ジャムズネット・アジア設立会議：在タイ大使館 2013年

ジャムズネット・アジア 世話人 **吉田常孝**
(在タイ日本国大使館 医務官)

ジャムズネット東京 理事長 **仲本光一**
(外務省 診療所 所長)

コロンビア大学 医学部循環器内科学
教授 **本間俊一**
(ジャムズネット 代表)

※このコラムは筆者の個人的見解を述べたものであり、外務省の公式見解とは異なる

中核となる2つの啓発活動

「邦人医療支援ネットワーク (Japanese Medical Support Network)」、通称ジャムズネットは、当時の米国日本人医師会会長でコロンビア大学の**本間俊一**教授が呼びかけ、在ニューヨーク日本国総領事館が側面支援をすることで、2006年1月にニューヨーク (NY) で設立された。NYには、医療や福祉、教育、心理の分野で邦人コミュニティを支援する団体が多数存在していたが、連携した活動はしていなかった。そこで、米国日本人医師会を中心に既存の20団体が参加して活動がスタートした (現在は23団体が加盟)。

中核事業は医療や福祉に関する情報提供と啓発活動。海外在留邦人にとっての大きな課題は高齢化である。NYでは、早くからこの問題に取り組んでおり、NY日系人会は、05年4月に、総領事館支援の下で「邦人・日系人高齢者問題協議会」を設立した。在留邦人や日系人の高齢化を念頭に置き、その健康に寄与するための啓発を目的として、NY日系人会と同協議会、ジャムズネットの共催で、日本の敬老の日に合わせ07年9月に第1回シニアウィークを開催した。このNY日系人会との共催イベントは今年で第

9回目となり、毎年2000人以上が来場する大きなイベントとして成長している。また10年には、このシニアウィークの活動の1つとして、日本で厚生労働省支援の下で行われている「認知症サポーターキャラバン事業」を海外で初めて開催した。以後は、北米における同事業の拠点となり、認知症の啓発活動にも力を入れている。また09年からは、4月のNY日系人会によるサクラ祭りに合わせて、高齢者に限らない健康に関する啓発イベントを「サクラ・ヘルスフェア」として日系人会と共催している。このサクラ・ヘルスフェアも毎年2000人以上の来場者を迎え、今年で7回目となった。

ジャムズネット (NY) は、このような継続した2つの啓発活動を中心に、在留邦人の健康と福祉に貢献してきた。サブグループとして07年3月に「メンタルヘルス・ネットワーク」が、10年5月に「スペシャル・エデュケーション・ネットワーク」が結成され、NYにおける在留邦人の精神保健や特別支援教育に関する支援活動を強化した。これらの活動実績から、10年には米国のNPO法人として認可を受けた。11年3月からは、東日本大震災の支援事業を加えながら、来年1月には10年目の節目を迎える。

東京とアジアにも活動拡大

ジャムズネット (NY) の活動を経験した帰国者を中心に09年1月にはジャムズネット東京を設立、12年に東京都からNPO法人として認可を受けた。ジャムズネット東京の活動は、一言で言えば「つなぐ」ことにある。医療や福祉、教育、心理の専門家を軸として、海外在留邦人に安全や医療に関する情報を提供し、在留邦人と支援団体や支援する人などをつなぎ、支援団体同士の交流を図ることで支援をより効率的、有機的に実施できる。そのつながりを元に「日本語や日本文化を継承し、国境をまたいで活動する人々」を支援することがジャムズネット東京の役割である。ジャムズネット東京は、毎年講演会を企画して「国境をまたいで活動する人々」に対する情報提供を行っており、今年で第4回目の講演会を開催した。また、この講演会に合わせて世界のジャムズネットが集まる「ジャムズネット・ワールド」(後述)も開催している。

ジャムズネット・アジアは、アジア・環太平洋地域で活躍する医療・福祉・教育・心理の専門家の情報交換の場として13年7月に設立、事務機能をバンコクに置き、バムルンラード病院の内科医師である百武加恵医師が代表世話人 (2期目) を務める。NPO法人「ジャムズネット東京」の傘下であり、医療ツーリズムが盛んなアジア地域の医療に関する情報共有と発信を行っている。15年8月現在で27カ国181人が参加、主にメールでの情報交換をしている。また、バンコクを中心に専門家による在留邦人向けの講演会も実施。14年には、周辺諸国の専門家を集め「WHO版サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA) 指導者研修会」を開催し、養成した指導者による「PFA 1日研修」を行った。15

年には、NYでも実施した「認知症キャラバンメイト研修」を行い、高齢化が著しいアジアの在留邦人に対する認知症の啓発活動を試みた。ジャムズネット・アジアは「つなぐ」をキーワードに、ジャムズネット東京と連携しながら、アジア・環太平洋で「国境をまたいで活躍する日本人」を支援することを目的として活動している。

また、バンコク地域ではサブグループとして「バンコクメンタルヘルス・ネットワーク」を13年に結成し、3000人の生徒数を擁する当地の日本人学校の問題を中心に在留邦人の精神保健の問題に力を入れている。

世界各地に広がる設立の動き

ジャムズネットの理念を受け継いだ団体が世界各地で立ち上がりとしている。13年にはジャムズネット・カナダが設立され、前述の認知症キャラバンメイト事業を展開しながら活動し、NPO法人化を目指している。同時期にジャムズネット・ドイツも設立され、欧州の既存の邦人支援団体との連携を模索している。また、豪州をはじめ在留邦人が多い地域でもジャムズネット設立の動きがある。

このような世界への広がりを受け、14年には「ジャムズネット・ワールド第1回会議」が発祥の地であるNYで開催された。今年には日本渡航医学会とも連携し、東京で「ジャムズネット・ワールド第2回会議」が開催された。

ジャムズネットは「公共性」「公益性」「学術性」を活動の骨格とし、「つなぐ」をキーワードに「国境をまたいで活躍する日本人」の生活を、医療や福祉、教育、心理の専門家が支援することを目的として今後も活動の場を広げていきたい。海外で活躍する皆様が、ジャムズネットを積極的にご活用いただければ幸いである。 ■